

慶應義塾大学日吉キャンパス特色 GP

「文系学生への実験を重視した自然科学教育」第2回ワークショップ

平成17年度特色GP「福井大学の教養教育」 - 特に副専攻制について -

日吉キャンパス特色 GP 「文系学生への実験を重視した自然科学教育」の事業として、副専攻認定制度の在り方の研究が4本柱の1つとなっており、福井大学で展開されているカリキュラムに非常に興味をもっている。福井大学での教養教育、特に副専攻制について紹介していただければと思う。

日時：2月4日(土) 10:00～12:00

場所：日吉キャンパス 第二校舎 1階 214 教室

講演]鈴木 敏男 (福井大学共通教育センター長、福井大学工学部教授、
専門は原子核理論物理学)

同会 大場 茂 (文学部化学教室教授)

=====

講演要旨：

平成17年度特色GPに採択された福井大学の取組「より高い現代的な教養教育をめざして」を紹介する。この取組は、工学部と教育学部を改組した教育地域科学部が、平成11年度からキャンパス単位で実施してきたものである。教養教育科目を履修する1年次から3年次までの学生数は約2,200名で、キャンパスの全教員約300名が、専門科目と共に、教養教育科目を担当している。

この取組の主な特徴は、副専攻制度と、それを支える開講科目群や履修制度である。教養教育科目は、教養教育のために開講されている科目(A群175科目)と、専門科目の一部を他専攻 他学部の学生に開放している科目(B群164科目)で構成されており、それらの科目は内容によって分野(A・B群各5分野)に、分野はさらに系(A群18系、B群12系)に分類されている。学生は、A群の5分野からそれぞれ1科目(均等履修)、1分野から3科目(集中履修)、さらに2科目を自由に選択(自由選択履修)して、合計10科目(20単位)を履修する。副専攻制度は、集中履修と自由選択履修で修得した単位を含め、1つの系から10単位以上を修得した場合に、その系の副専攻を修得したと認定する制度である。これまで、約20%の学生が修得しているが、文系の学生が理系の副専攻を修得するケースは少ない。